



JPBAプレイヤーズドリームマッチ2023

9月1~3日
ドリームスタジアム太田

坂本就馬ノンストップでV2

JPBAの男子選手会が主催する形で2021年に誕生した『JPBAプレイヤーズドリームマッチ』の第3回大会は、9月1日から3日間、昨年に引き続き、群馬・ドリームスタジアム太田で開催されたが、一週前に同会場で行われた新人戦で初タイトルを獲得した坂本就馬(59期・永山コバボウル)がその勢いそのまま優勝、レギュラータイトルも奪取した。(主催:JPBA男子プロボウラーズ選手会 特別協賛:ドリームスタジアム太田/アマカスグループ)

伏兵・正田晃也が快進撃

選手会による手作りの大会として、さまざまな趣向が凝らされてきたが、競技方法もいかに飽きさせずに見られるかをテーマに、試行錯誤をしてきた。

今大会は90名が決勝ラウンドに進出、5Gを投球し、順位により決勝トーナメントのシード権が決定されたが、今年デビューの藤永北斗が1262を打って1位、1週前の新人戦で初タイトルを挙げたばかりの坂本が1239の2位で、二人は5回戦までを免除、6回戦からの登場だった。

90名による1Gマッチのトーナメントは、藤永が自身の初戦となる6回戦で、藤村隆史に225:233で敗れるまさにサバイバルマッチ。藤村は7回戦(準々決勝)でも堀江真一を222:215と競り落として準決勝に進んだ。Aゾーンでもう一人準決勝に進んだのは正田晃也。ランクシーカーの配信実況での認知度が高いが、初戦の2回戦からビッグゲームを連発して勝ち上がると、6回戦は高田浩規を同ピンのワンショットプレーオフの末に下した。さらに7回戦で谷合貴志を201:188で退けた。

Bゾーンで準決勝まで勝ち進んだのは、坂本と山本勲。坂本は6回戦で田沢広也を228:201で下すと、7回戦は鈴木一彌に265:228と快勝して、2週連続優勝に順調な歩みを進



▲第1回のチャンピオンであり、選手会長の川添英太から賞金バネルを贈られた



▲3年目の覚醒を予感させる?週連続優勝の坂本



▲「自分の持ち味でもあるロフトの技術が生きた」と坂本

Bゾーン準決勝

坂本は「正田プロがウレタンを投けているから、曲がらなくてやばいよってすごく言われた。でもロフトの距離を伸ばして投げたら、はまった感じで投げられた」と、1フレから会心のストライクを連発した。準決勝の4名中左は一人だけで有利かと思われた山本だが「3分間練習のなかで立てたプランがうまくいかなかった。また就馬がピッタリはまりすぎていて、プレッシャーを与える余裕もなく終わってしまった」と、6フレからのフィフスも277を叩いた坂本には及ばなかった。

優勝決定戦

19年目の初タイトルを狙う正田と、一週前の新人戦に続く2連勝がかかる坂本との優勝決定戦。正田は「準決勝で感じた甘さをどうにかしようと、待っている間に思いっきり曇らせた」そのボールがはまって、フォーススタートを切ったが、5フレは③⑥⑨⑩を残すと、カパーもならずオープン。「完璧なストライクでフォースを持ってこられて、普段なら焦ったと思うけど、1Gマッチを7試合勝って上がってきている正田プロに、自分はチャレンジする側だという気持ちで臨んだのがよかった」と、坂本が3フレからのフォースで逆転。

正田は「5フレちょっと外ミスしたらあそこまで刺さって、これは削れてきたかもしれないと思って、板目半分くらい内に入ったけど、逆にオイルを高く感じた」と、6フレから9フレまではスベア。坂本も7、9フレと右レーンでストライクを奪えなかったが「ポケットは1回も外していないし、思いどおりの

めた。また4回戦から登場の山本は、6回戦で志摩竜太郎を203:193、7回戦は斉藤琢哉を258:254と、いずれもサウスポー対決を制して駒を進めた。

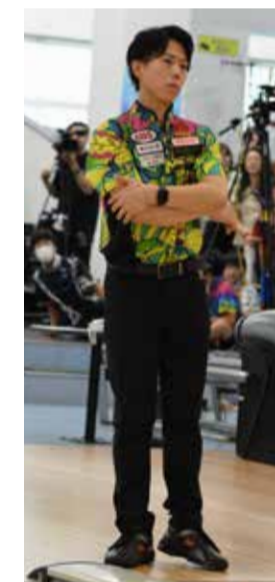
準決勝からは、リメンテされたレーンで行われたが、そのアジャस्टिंगに各選手大苦戦した。

Aゾーン準決勝

藤村と正田の対戦となったAゾーンの準決勝は、「ここまでウレタンボールを使って勝ち上がってきて、リアクティブに替えてローゲームで負けるのは悔しい」と、ウレタンボールをチョイスした正田。一方「今大会でメンテしたてのレーンを投げるのは初めて。おまけに正田プロがウレタンボールを使っていて、キャリアダウンしたレーンに合わせきれなかった」と藤村。互いに苦しんだなかでも、合計5つのスプリットで150に沈んだ藤村が、169の正田に屈した。



▲「すてい声援のなかで優勝決定戦の景色は素晴らしかった。いい経験になったけど、あそこまでいったら勝ちたかった」と惜しくも準Vの正田



▲準決勝は最後までアジャストできなかった藤村「キャリアアップしたレーンの攻略ができるようにしっかり練習を重ねたい」と



▲「みんな同じ条件なんだけど、今回のフォーマットは失敗できない怖さを常に持ちながら投げるとい、なんかしびれました」と山本

たという自信は胸に秘めておきたいと思う。

優勝ボール: 900GLOBAL(A BS)ゼン・ムドラ

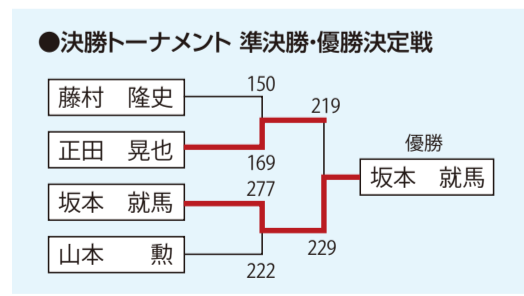
ボウリングはできた」と、10フレ1投目のストライクで優勝を決定づけた。

◎坂本のコメント

正田プロはアクションが大きくて、声も出して自分を盛り上げるタイプ。でも自分がそれに乗っかって熱くなったら負けだと思って、冷静にいるように努めた。同じ会場で2週連続だったので、2勝した感覚はない。でも調子に乗ってはダメだと思うけど、2勝し



▲JPBAのレジェンド矢島純一(左)、酒井武雄(右)にはさまれてジュニアイベント「KING OF JUNIOR」の入賞者、左から1位・渡邊楓、2位・益子蒼、3位・中川結雅の各選手



●優勝決定戦

正田 晃也	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	30	60	86	105	114	133	151	169	189	219
坂本 就馬	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	20	40	70	100	129	149	169	189	209	229